

## 先生のための「じぶんはっけん！シート」使い方マニュアル

本シートは、児童が自分の得意なことやできること、不得意なところを自覚して、得意なことやできることを伸ばし、先生たちとともに適切な行動を増やして不適切な行動を減らしていくための手がかりの一つとなるチェックリストです。文部科学省が平成14年に実施した「児童生徒理解に関するチェックリスト」に代表されるように、ADHDやアスペルガー症候群、LDなどをスクリーニングするチェックリストは、教師や親が児童生徒のできないところをチェックするリストがほとんどです。そこで、本研究では、児童が得意なことや不得意なことをチェックするリストを作成しました。児童自身が自分の得意なことや不得意なことを意識することにより、支援の効果が上がり、自己コントロールがしやすくなると考えたからです。また、児童の自己評価ですから教師のとらえている実態とずれていることもあります。児童が自分をどのように見ているのかを把握することができます。本シートの結果などをふまえて、課題を持って一定期間支援を行った後、再度シートで児童がチェックした結果から、児童の自分に対する見方の変化をとらえることができますと考えます。

本シートは1・2年生用と3～6年生用の2種類とし、児童がチェックすることから、質問項目は、よく教師が使用するチェックリストの「～できない」は使わないようにしました。また、発達段階を考慮して1・2年生用の質問には「～がすき」を使い、3～6年生用の質問には「～がとくい」を使うようにしました。質問は、すべての児童に分かりやすくするために、分ち書きにして、漢字にはふりがなを付けました。シートの数字は以下の項目に対応しています。

- |       |           |       |              |      |      |
|-------|-----------|-------|--------------|------|------|
| 1 聞く  | 2 話す      | 3 読む  | 4 書く         | 5 計算 | 6 推論 |
| 7 不注意 | 8 多動性・衝動性 | 9 過敏性 | 10 対人関係・こだわり |      |      |

### 注意

- ① 本シートは必ず児童と教師で一緒に行うようにして、児童が質問の意味が分からないときは教えながら取り組んでください。クラス全員で行うことも可能ですが、特別な教育的支援を必要としている児童には、個別に対応しながら行ってください。
- ② 本シートは、児童が自分の得意・不得意を自覚することと、児童が自分をどのように見ているのかを把握することが目的ですので、どうしても児童が分からない質問がありましたら、無理をせずにとばしてもかまいません。
- ③ 本シートは、児童が答えやすいように質問項目をかなり精選してあります。必ず個別の指導計画や教師の観察と、必要があれば発達検査や群馬県教育委員会特別支援教育室の「特別な支援を必要とする児童生徒に関するチェックリスト」を行って、総合的に児童の得意なことと不得意なことをとらえてください。
- ④ 本シートはA4で作成してありますが、必要に応じて拡大してお使いください。

〈参考〉「特別な支援を必要とする児童生徒に関するチェックリスト」群馬県教育委員会特別支援教育室

# じぶんの すきなことや できることを しよう



名前( )

先生といっしょに「そのとおり!」「そうかも」「ちがう」に○をつけてみよう

し つ も ん		そのとおり!	そうかも	ちがう
1	先生や 友だち かぞくの 話を聞くのがすき			
2	先生や 友だち かぞくに 話をするのがすき			
3	こくごなどで きょうかしよを 音読するのがすき			
	本を 読むのがすき			
4	ひらがなや カタカナ かんじを 書くことがすき			
	作文を 書くことがすき			
5	計算することがすき			
6	図工で 絵をかくのがすき			
	こくごで どうじょうじんぶつ の きもちを 考えるのがすき			
	ノートを わかりやすくかくのがすき			
7	テストで うっかり まちがえることは あまりない			
	かかしのしごとなど きめられた しごとは さいごまでやる			
	わすれものや ものをなくすことは あまりない			
	きょうしつ の 自分の つくえの 中は きれいになっている			
8	じゅぎょう中は せきにすわってられる			
	じゅぎょう中に 手わるさや らくがきをしたり べつのことを 考えたりすることは あまりない			
	思ったことを じゅぎょう中でも すぐに話すことはない			
9	大きな音や高い声は 気にならない			
10	友だちから ○○はかせとか てんさいなどと いわれることはない			
	友だちといっしょに あそぶのがすき			
	おこりっぽい ところはない			
	よていが かわっても みんなと同じに こうどうできる			

11 すきなべんきょうは、なんですか。どんなところが、すきですか。(学校、家、じゅくなどのどこのべんきょうでもよい)

12 すきなあそびや じまんでできることは、なんですか。

13 できるようになりたいことが、ありますか。

さいごまでやってくれて、ありがとう！がんばったね！



# 自分の とくいなことや できることを 確認しよう

名前( )

先生といっしょに「そのとおり!」「そうかも」「ちがう」に○をつけてみよう

し つ も ん		そのとおり!	そうかも	ちがう
1	ひと はなし さいご まで きくことができる 人の話は最後まで聞くことができる			
	グループで 話し合うことは とくい			
2	じぶん の いたい ことが 相手に 分かり やすく 伝わっている と思う			
3	こくご などで 教科書を 音読するのが とくい			
	ほん を 読むのが すき			
	ぶんしょう かに 書いてあることは 読めば だいたい わかる			
4	かんじ を 書くことが とくい			
	さくぶん を 書くことが とくい			
5	けいさん することが とくい			
	さんすう の ぶんしょうもん だいを 解くことは あまり むずかしくない			
6	さんすう で じょうぎ や コンパス を 使って 図形 を かくのは とくい			
	こくご で とうじょうぶつ の きもち を 考えるのは とくい			
	ノート を 書くときは どこに 何を 書くか 考えて すぐに 取り組んでいる			
7	テスト で うっかり ミス を することは あまり ない			
	かかり しごと など きめられた しごとは 最後まで できる			
	わすれもの や 物を なくすことは あまり ない			
	つくえ なか み まわ せいらい せい 机の中や 身の回りを 整理・整頓 することは とくい			
8	じゅぎょう 中 は せき に すわって いられる			
	じゅぎょう 中に 手わる さや らくがき を したり 別のことを 考えたり することは あまり ない			
	おも 思ったことを すぐに 言わずに 考えてから 言う ように している			
9	おお おと たか こえ 大きな音や 高い声は それほど き にならない			
10	ともだち から ○○ 博士 とか 天才 など と言われる ことは ない			
	ともだち と なかよく あそ 遊ぶ ことができる			
	おこりっぽい 性格 ではない			
	よてい が へんこう されても すぐに 新しい 予定 で 行動 できる			

11 とくいな べんきょう は、何ですか。どんなところが すき ですか。(学校、家、じゆくなどのどこの べんきょう でもよい)

12 すきな あそ びや、じまん できることは、何ですか。

13 できるようになりたいことが、ありますか。

さいごまで やって くれて、ありがとう！ がんばったね！

# スクラムカード

# スクラムカード

# スクラムカード

年 組 名前 ( )

担任 ( )

通級指導担当 ( )

やってみよう!	月 日	/	/	/	/	/
今日の授業は 分かったかな?						

支援方法	月 日	/	/	/	/	/

支援方法	月 日	/	/	/	/	/

今日の じゅぎょうで できたことに できたシールをはろう

十分にできた支援に◎ 少しできた支援に○ できなかったは空欄  
必要のなかった支援は/

十分にできた支援に◎ 少しできた支援に○ できなかったは空欄  
必要のなかった支援は/

キリトリせん

## スクラムカード作成について

### 児童の目標の決め方

- 児童は「じぶんはっけん!シート」で自分の得意なことや不得意なことを把握する。
- 教師は個別の指導計画や群馬県教育委員会特別支援教育室の「特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関するチェックリスト」などでも児童の得意なことや不得意なことを把握する。
- 児童の実態を右の表のように整理して把握し、通級指導担当と担任とで共通理解を図っておく。
- 目標設定時の話合いで児童の思いや少しでもできていることを取り上げて目標にする。最初の目標は一つでもよい。

(例)

	得意(すき)	伸びている	不得意
児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>本を読む</li> <li>虫探し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の開始時間に着席できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人の話を最後まで聞けない</li> <li>テストでうっかりミスをする</li> </ul>
教師	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書では集中している</li> <li>授業中に無駄なおしゃべりはしない</li> <li>個別の指示は素直にきく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視覚的な指示があるときは話を聞く</li> <li>授業の開始時間に着席できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話を聞き逃す</li> <li>授業中に集中が途切れる</li> <li>一定の児童とトラブルになる</li> </ul>

得意なこと(すき)も目標の一つとして、できることをほめる、認める。必ずできたシールが貼れる項目を入れることにより、自己肯定感が下がらないようにする。

伸びていることは、できたことをほめて意識させてから目標にすることにより、継続して達成できるようにする。

不得意なことから目標を設定するときは、目標を決める前に教師が支援を行い、多少できるようになってから目標にする。

### ★目標設定の注意★

(例) 不得意「人の話を最後まで聞けない」



- 目標 × 「人の話を最後まで聞くようにする」
- 「何をするか分からなかったらとなりのまねをする」
  - 「話を聞き逃したと思ったら、静かに手を挙げて聞く」

※「～できない」を「～する」とした目標ではなく、不得意やできないことを補う具体的な目標としよう。

学習面 フォローシート①

# 「えらんでやってみよう！」

	児童の気がかりな姿	TRY! 環境調整 ☆ 物理的環境 ◎ 社会的環境	TRY! 個別の支援	
<b>1 聞く</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○聞き間違いがある</li> <li>○聞きもらしがある</li> <li>○個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい</li> <li>○指示の理解が難しい</li> <li>○話合いの流れが理解できず、ついていけない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 実物を示したり、話に関係する絵などを用意しよう</li> <li>☆ 黒板に順を追って指示内容を書こう</li> <li>☆ 指示や説明の始めに注意を引いてから短時間で話そう</li> <li>☆ 指示は一時一事にしよう</li> <li>◎ 話し合いでは本児のことを理解してくれる児童を同じ班にしよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♡ 聞き取れていないときは、必要な情報をもう一度「短く・はっきり・ゆっくり」話そう</li> <li>♡ 複数の指示があったら、一つできてから次を示そう</li> <li>♡ 話合いの内容が分からなくなったら「分からないので教えて」と言えるように、必要な場面で練習できるようにしよう</li> </ul>	適切な行動が取れたときはできたことを確認できる言葉をかけよう
<b>2 話す</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○適切な速さで話すことが難しい</li> <li>○ことばにつまったりする</li> <li>○単語を羅列したり、短い文で内容的に乏しい話をする</li> <li>○思いっくままに話すなど、筋道の通った話をするのが難しい</li> <li>○内容を分かりやすく伝えることが難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 子どもが話しやすいように、実物や写真、絵などを用意しよう</li> <li>☆ 発表のときは、あらかじめ話すことを書いておくように支援して、発表しやすくしよう</li> <li>◎ 子どもの手本となるように、正しい言葉や文で話しかけよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♡ じっくりと話を聞き、話そうとしていることやそのときの気持ちを適切な言葉で言い換えよう</li> <li>♡ 指示代名詞が多いときは、いくつかの選択肢を用意したり、言葉を補ったりしよう</li> <li>♡ 「いつ」「だれが」「どこで」「どうした」という疑問詞を提示し、それにあわせて児童が話すことで、伝え方の学習ができるようにしよう</li> </ul>	
<b>3 読む</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○初めて出てきた語や普段あまり使わない語などを読み間違える</li> <li>○文中の語句や行を抜かしたり、または繰り返し読んだりする</li> <li>○音読が遅い</li> <li>○勝手読みがある</li> <li>○文章の要点を正しく読みとることが難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 文章に関係する絵を用意しよう ☆ 分かち書きにしよう。</li> <li>☆ 漢字にふりがなを振ろう ☆ 教科書の文字を拡大しよう</li> <li>☆ 段落の関係を図にし、部分どうしや部分と全体の関係が目で見える形で提示したり、キーワードを教師が丸で囲んでポイントをしばったりしよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♡ 事前に読むところを伝えて家などで練習できるようにしよう</li> <li>♡ 一斉音読では教師がシャドー読み(児童の近くで小さな声と一緒に音読する)をしよう</li> <li>♡ どれが主題かを選択肢を用意して選べるようにするなど、スモールステップで取り組めるようにしよう</li> </ul>	
<b>4 書く</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○読みにくい字を書く(字を書くのが嫌い)</li> <li>○独特の筆順で書く</li> <li>○漢字の細かい部分を書き間違える(鏡文字や似ている形の字)</li> <li>○句読点が抜けたり、正しく打つことができない</li> <li>○限られた量の作文や、決まったパターンの文章しか書かない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 机の上におく物をできるだけ減らして、ノートなどがまっすぐにおけるようにしよう</li> <li>☆ 不器用さがある場合、鉛筆や消しゴムなどは、使いやすい物を用意しよう。マス目の大きいものや罫線のある用紙を用意しよう</li> <li>☆ 書く負担を減らすため、授業ではなるべくワークシートを使おう</li> <li>☆ 写真やパンフレットなど作文のテーマにあわせた資料を用意しよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♡ 文字を練習する際、言葉による意味づけをすることで記憶の手助けとなるようにしよう。回数多く書かせるのはやめよう</li> <li>♡ 文字を「よく見て」「丁寧に」は児童を困惑させるだけなので、具体的に指示をするようにしてやる気を起こす言葉をかけよう</li> <li>♡ 少しでもうまく書けた文字や丁寧に書き直せた文字にこまめに丸をつけ、ほめよう</li> <li>♡ 漢字テストなどでは、大まかに書いてあれば正解または準正解として意欲を低下させないようにしよう</li> <li>♡ 「いつ」「どこで」「誰が」「何をして」「どう思ったのか」など質問形式にして、アウトラインメモを作るようにしよう</li> <li>♡ 何についての作文を書くのか事前に予告して、考える時間、家庭で話し合える時間が取れるようにして、題材のヒントを得られるようにしよう</li> </ul>	
<b>5 計算する</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年相応の数の意味や表し方についての理解が難しい(三千四十七を300047や347と書く。分母の大きい方が分数の値として大きいと思っている)</li> <li>○簡単な計算が暗算でできない</li> <li>○計算をするのにとっても時間がかかる</li> <li>○答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くのが難しい(四則混合の計算。2つの立式を必要とする計算)</li> <li>○学年相応の文章題を解くのが難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ マス目のある用紙を使用し、問題を写したり、計算したりするときの位取りが分かりやすくしよう</li> <li>☆ 具体物や絵、図を提示して、計算の意味を示す加減乗除の記号の意味を分かりやすく伝えよう</li> <li>☆ 文章題の中で要点や鍵になる言葉に印をつけよう</li> <li>☆ 文章のポイントを絵や図にかいて示そう</li> <li>◎ 算数の文章題によく使われる言葉(ぜんぶで、あわせて、のこりはなど)の意味と式をつなぐような説明をしよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♡ 一度にたくさんの計算問題を解いて習熟させるのではなく、問題数を少なくすることで意欲を失わせないように配慮しよう</li> <li>♡ 計算の手順を言葉で確認しながら進めることで計算の方法を習熟させ、次第に心の中で唱えるようにしていこう</li> <li>♡ 文章題を読み上げてから、問題の解決に取り組めるようにしよう</li> <li>♡ 文章題の内容をできるだけ子どもの経験した場面や興味のある題材に置き換えて説明を補足しよう</li> <li>♡ 宿題やプリントでは子どもができそうな課題に印をつけて、問題の質や量を調整しよう</li> </ul>	
<b>6 推論する</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年相応の量を比較することや、量を表す単位を理解することが難しい(長さやかさの比較。「15cm は150mm」ということ)</li> <li>○学年相応の図形を描くことが難しい(丸やひし形などの図形の模写。見取り図や展開図)</li> <li>○事物の因果関係を理解することが難しい</li> <li>○目的に沿って行動を計画し、必要に応じてそれを修正することが難しい</li> <li>○早合点や、飛躍した考えをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 具体的な物を用意して説明しよう</li> <li>☆ 空間認知が苦手なため、ノートがうまく書けない場合には、教師が児童のノートと同じマス目の黒板を使おう</li> <li>◎ 作図では、友達とペアで学習できるようにしよう</li> <li>◎ 普段からお互いの考えがずれていたり、なかなか修正できなかったりしても、多様な意見を認め、思いやりのある言葉で、お互いが歩み寄れるようなクラスの雰囲気を作ろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♡ 図形を弁別する際の手がかりとなるように、言葉での説明を加えるようにしよう</li> <li>♡ 作図には厳密さを求めないようにしよう</li> <li>♡ 教師がノートの書き出しを薄く書き、そこを児童がなぞることで書きやすくしよう</li> <li>♡ 国語で登場人物の心情などを考えるときは、挿絵から考えるようにしたり、それでも難しい場合にはいくつかの選択肢を用意して選べるようにしたりするなど、手がかりを示して学習に参加できるようにしよう</li> </ul>	

<参考> ○群馬県教員委員会特別支援教育室「特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関するチェックリスト」 ○国立特別支援教育総合研究所発達障害教育情報センターHP「学校における支援・指導」  
 ○「ズバッと解決ファイル」阿部利彦 編著 金子書房 ○「教室でする発達障害への教育コーチ」横田 健 編 林 隆 TOSS長州教育サークル 著 明治図書 ○「発達障害のある子どもができることを伸ばす！学童編」杉山登志郎・辻井正次 監修 日東書院

# 「えらんでやってみよう！」

	児童の気がかりな姿	TRY! 環境調整 ☆物理的環境 ◎社会的環境	TRY! 個別の支援	
7 不 注 意	○学習では、細かいところまで注意を払わなかったり、不注意な間違いをしたりする	☆テストでは、用紙を折りたたんだり、周りを紙で隠したりして、一問ずつ見えるようにしよう。また、テスト用紙を拡大してみよう	♡どのような作業でも、一つ終わったら教師ができ具合を確認しよう。自分でも確認することを習慣づけよう	適 切 な 行 動 が と れ た と き は で き た こ と を 確 認 で き る 言 葉 を か け よ う
	○課題や遊びの活動で注意を集中し続けることが難しい	☆一つ一つの課題や活動を短時間で構成し、それぞれを図や文字で表して終了時間も明確にしよう	♡無理をさせず、ある程度課題をこなしたり、遊んだりしたら、他の児童の影響のない範囲で別のことに取り組めるようにしよう	
	○面と向かって話しかけられているのに、聞いていないようにみえる	◎学級全体で道徳や学級活動で、話の聞き方を考え、ロールプレイを取り入れてみよう	♡話を理解しているか、個別に確認しよう	
	○指示に従えず、また仕事を最後までやり遂げない	☆1回で1つの指示をするようにしよう ☆学級の中でやるべきことをパターン化して、やり終えたらチェックできるシステムを用意しよう(例 係の仕事を終えたら、一覧表のネームを移動する)	♡話を聞くときは、話し手の顔を見て相づちを打つなど教師が見本を示そう ♡指示を具体的にしよう 例 ×「片付けなさい」→○「本を本棚に入れよう」 ○「机の上の物を全部この箱に入れよう」	
	○学習課題や活動を順序立てて行うことが難しい	☆黒板などに課題や活動の順序を図や文字で示して、分からなくなったときに確かめられるようにしよう	♡活動の順序を紙に書いて児童の机の上に置いたり、一つできてから次を示したりするようにしよう	
	○集中して努力を続けなければならない課題(学校の勉強や宿題など)を避ける	☆課題を教師がよく吟味して短時間の作業の組み合わせで構成しよう ☆先の見通しを持たせながら、作業を一つずつ示すようにしよう	♡課題を避けずに短時間でも集中できたらほめよう。それを繰り返すことにより、集中が長く持続するようにしよう。ただし、無理強いをせず前よりも集中できていたら、そのことをほめて終了してもよいことにしよう	
	○学習課題や活動に必要な物をなくしてしまう(片付けができない)	☆学級全体で持ち物には名前を書くことを徹底しよう ☆持ち物を置く場所を学級のルールとしてはっきりと決めよう ☆クラス全員で片付けをする時間を設定しよう	♡机の周りを散らかしてしまう場合には、専用の箱を用意してまずはそこに片付けることから始め、スモールステップで取り組んでいこう ♡週に一度(または日に一度)、教師と一緒に片付ける時間を数分持とう。 ♡完璧さを求めないようにしよう。少しでもできたらほめよう	
○気が散りやすい	☆黒板回りの掲示物をすっきりとし、教室を整理・整頓しよう ☆板書は分かりやすく、整然とした書き方にしよう ☆教室の座席は、本児の特徴を理解している子どもを近くにし、刺激しやすい子や刺激を受けやすい子とは離すようにしよう	♡カードで今何をするかを示すなど、本児にあった方法で本来やるべきことに戻れるようにしよう ♡工夫した言葉がけで現在行っている活動に興味を持てるようにしよう		
○日々の活動で忘れっぽい	☆教室に予備の備品を用意して忘れた児童には貸し出そう。ただし、連絡帳に忘れた物を書き、教師に見せてから借りるなどルールを決めよう ◎同じ注意や叱責を繰り返しても、効果はないのでやめよう	♡①メモを取るように指導。②メモを入れるランドセルのポケットを決める ③メモされているか、メモが所定の場所に入っているか家庭で確認してもらおう。①～③の三つをすべて徹底しよう		
8 動 性 ・ 衝 動 性	○手足をそわそわ動かしたり、着席していても、もじもじしたりする(手遊びがやめられない)	☆1時間の授業をモジュール化して、それぞれの作業を短時間で構成しよう。すき間の時間ができない授業展開にしよう ◎周りの児童が注意するときは、叱責にならないように、教えるという言葉がけになるよう道徳や学級活動で取り上げておくようにしよう	♡ノートに書く、指を折りながら話を聞くなど、じっとしている時間を減らそうようにしよう ♡他人に迷惑をかけない行為は、黙認しよう。しかし、無視はしない ♡頑張っている場面で、具体的な行動をほめよう。(着席も頑張っている) 例「ノートを開いているね」「三つ書けたね」「着席して勉強できてるね」	で き た こ と を 確 認 で き る 言 葉 を か け よ う
	○授業中や座っているべき時に席を離れてしまう	☆座席は窓側を避け一番前にしよう ◎授業を、読む・書く・考える・操作するなど流れを一定にし、それぞれの作業を短時間で構成しよう ◎教師は児童の少しでもできている部分を認め、ほめ続けることにより、学級全体が励まし上手になれるようにしよう	♡指示をなるべく具体的にし、全体への指示の場合にも個別の指示を組み合わせよう ♡立ち上がりそうなお手伝いなどをしてもらい、立ち歩きを認めよう ♡休み時間などに十分体を動かすように促し、エネルギーを発散させよう	
	○きちんとしていなければならないときに、過度に走り回ったりよじ登ったりする	☆ルールを明確にし、活動の前に全体でルールを確認してから行うようにしよう	♡個別にルールを確認し、ルールを守れたときはどこが良かったのか具体的に話してほめよう	
	○遊びや余暇活動に大人しく参加することが難しい	☆本児の座席は、刺激しやすい子から離すようにしよう	♡動いてしまうのはどんなときか、その前後の様子も観察して指導に生かそう	
	○じっとしていない。または何かに駆り立てられるように活動する	☆教師の目線やジェスチャーで静かにするようルールをクラス全体で決めておこう ◎学級全体で、声のボリュームを意識させるようにしたり、授業の中で「しーん」とした時間を作ったりするようにしよう	♡集中できればしゃべらない場合には、手がかりとなる視覚的ヒントや助言、手本を教師が示したり、手本となる児童の模倣を促すようにしよう ♡注意を続けるのではなく、児童が自分の声の大きさを自覚できるように場面ごとに適切な声の大きさを教えよう。教師は児童の側でささやくように指導しよう ♡休み時間などには話を聞いてやり、児童が思い切り話せるようにして心を開放できるようにしよう	
	○質問が終わらないうちに出し抜けに答えてしまう	☆ルールを明確にし、必ず挙手をして指名されてから答えるということを教えよう	♡シールと交換で挙手・発言するようにし、できたら明確にほめよう	
	○順番を待つのが難しい	☆ノートの丸付けなどでは、長い列ができないように気を付けよう ◎ルールを明確にし、抜かされたときの相手の気持ちを考えるなど、道徳などで相手の気持ちを考える機会を設けよう	♡体育や教室でのゲームなど、小集団で活動する中で順番を守る体験ができるようにしよう	
	○他の人がしていることをさえぎったり、じゃましたりする	☆特定の児童に対して行動してしまう場合は、接触する機会を減らしたり、必ず教師の誰かがつくようにしよう ◎対処方法をあらかじめ考えておき、一貫した態度を取ろう。クラスの児童にも対応の仕方を伝えよう	♡厳しく叱らずに寛容に受け止め、そのときの状況をどうしたら良かったのか静かに伝えよう ♡児童が自分自身で衝動を抑えて集団の決まりを守れる方法(何かやりたいときは手を挙げたり、カードを提示したりなど)を子どもと一緒に考えよう ♡マイナスな行動には触れずに淡々とやってほしいことだけを指示し、やってほしいことができたときは大げさにほめて、良い行動を強化していこう	
9 過 敏 性	○極端に食べ物の好き嫌いがある ○大きな音や高い音を極端に嫌う ○においに敏感なところがある(特定の服の素材が不快であったり、触られただけで痛がる)	◎普段から誰にでも苦手なことがあることを認め合い、お互いに助け合うクラスの雰囲気を作っていこう	♡児童の苦手なところを把握し、取り除けることにはあらかじめ対応して無理強いしないようにしよう。本児にとっては耐え難い苦痛であることを理解しよう ♡苦手なことが取り除けないときは、どのように対応するか児童と話し合っておこう	

<参考> ○群馬県教員委員会特別支援教育室「特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関するチェックリスト」 ○国立特別支援教育総合研究所発達障害教育情報センターHP「学校における支援・指導」  
○「ズバッと解決ファイル」阿部利彦 編著 金子書房 ○「教室でする発達障害への教育コーチ」横田 健 編 林 隆 TOSS長州教育サークル 著 明治図書 ○「発達障害のある子どもができることを伸ばす!学童編」杉山登志郎・辻井正次 監修 日東書院



# 「えらんでやってみよう！」

## 行動面B フォローシート③

	児童の気がかりな姿	TRY! 環境調整 ☆ 物理的環境 ◎ 社会的環境	TRY! 個別の支援	
10対人関係・こだわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大人びている。ませている</li> <li>○みんなから、「○○博士」「○○教授」と思われている</li> <li>○他の子どもは興味を持たないようなことに興味があり、「自分だけの知識世界」を持っている</li> <li>○特定の分野の知識を蓄えているが、丸暗記であり、意味をきちんとは理解していない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 本児が学級の中で変わり者と思われるのではなく、特徴を良い面としてとらえて認めていこう。学級全体でも一人一人の個性や得意な面を認め合えるようにしよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♡ 本児の特徴を良い面として認めることにより、本児が自己肯定感を持てることにつながっていこう</li> <li>♡ 本児が自慢しすぎないように、ソーシャルスキルトレーニングなどで相手の気持ちを考える機会を持とう</li> <li>♡ 知識に対応する意味を本児にあった方法(パソコン、本など)で知る機会を用意しよう</li> </ul>	適切な行動が取れたときはできたこと確認できる言葉かけよう
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○含みのある言葉や嫌みを言われても分からず、言葉通りに受けとめてしまうことがある</li> <li>○会話の仕方が形式的であり、抑揚なく話したり、間合いが取れなかったりすることがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ クラスの仲間に本児との会話の仕方について理解を促す機会をもち、人と会話するときは自分の言葉を相手がどのように受け取るかを考える機会にしよう</li> <li>◎ 学級全体で道徳や学級活動で、会話の意味や会話の仕方を考えたり、ロールプレイを取り入れてみよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♡ 実際の場面で、言葉通りに受け止めてしまったり、間合いなく話していたりするのを見かけたら、責めたり注意したりせず、その場で相手の気持ちや話し方を教えよう</li> <li>♡ 機会を捉えてソーシャルスキルトレーニングを行ったり、小集団で会話の練習をしたりするようにしよう</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言葉を組み合わせで自分だけにしか分からないような造語を作る</li> <li>○独特な声で話すことがある</li> <li>○誰かに何かを伝える目的がなくても、場面に関係なく声を出す(例：唇を鳴らす、咳払い、喉を鳴らす、叫ぶ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 本児が学級の中で、他の児童から特異な眼で見られたり、注意ばかり受ける対象とならないように、普段からそれぞれの児童の良いところを認め合うことによって、どの児童もクラスの大切な一員となるようにしていこう</li> <li>◎ 注意は先生がすることを徹底し、児童同士では注意ではなく優しく声を掛け合う雰囲気を作ろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♡ 独特な声を出すときは、そうになってしまう本児の気持ちを認めて、どんなときに出すのか観察しよう。また、その前後の様子も捉えて指導に生かそう</li> <li>♡ 他の児童の妨げになるほど声が出てしまうときは、教室を出ていられる居場所を用意しよう。次第に、自分で自覚して自ら別室に行くと言えられるようにしていこう</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○とても得意なことがある一方で、極端に不得意なものがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 道徳や学級活動で、誰でも得意不得意があり、協力し合って生活していることを学級全体で実感できる機会を持とう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♡ 不得意なことに取り組める手立てを用意したり、あまりに難しいときには別のことに替えるなど、無理強いしないようにしよう</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いろいろな事を話す、その時の場面や相手の感情や立場を理解しない</li> <li>○共感性が乏しい</li> <li>○周りの人が困惑するようなことも配慮しないで言う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 教室の座席は、本児の特徴を理解している子どもを近くにし、本児を刺激しやすい子や刺激を受けやすい子とは離すようにしよう</li> <li>◎ クラスの仲間に本児について理解を促す機会をもち、友達関係を調整しよう。ただし、周りの子どもたちにも不満や正直な気持ちを出させる機会を設定しよう</li> <li>◎ クラス全体で相手を傷つけない断り方や話し方を学ぶことによって適切な会話のスキルを共有し、本児の会話のスキルだけでなく、本児の会話に対する対応の仕方を周囲の子どもたちが気付ける機会をつくろう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♡ 相手を傷つけるような発言をしたときには、相手の気持ちを考えるなど情に訴えても効果がない場合は、理に訴え筋道を立てて暗黙の常識を教えよう。そのとき、絵や文章を使って見えるようにしながら解説しよう</li> <li>♡ 困ったこと、分からないことをメモさせ、メモをもとに後で一緒に課題を整理して、状況に応じた振る舞い方や言い方を学習する機会を作ろう</li> <li>♡ 話しかける前や話題を変えるときは、一言確認することを教えたり、自分の興味のある話だけしないで相手の意見を聞くように教えたり、基本的なスキルを教えよう。場面に応じた対応ができるように繰り返し教えよう</li> <li>♡ 休み時間など時間があるときに、本児の興味のある話を聞いて会話を行うことで、本児が安心して話をする機会を得られるようにしよう</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○独特な目つきや表情をすることがある</li> <li>○他の子どもたちから、いじめられることがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 普段からそれぞれの児童の良いところを認め合うことによって、どの児童もクラスの大切な一員となるようにしていこう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♡ 独特な目つきや表情をするとき、どんなときか観察しよう。また、その前後の様子も捉えて指導に生かそう</li> <li>♡ いじめられる方も悪いなど簡単に解決せず、状況判断や双方の気持ちを聞いて円満に解決できるようにしよう</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○友達と仲良くしたいという気持ちはあるけれど、友達関係をうまく築けない</li> <li>○友達のそばにはいるが、一人で遊んでいる</li> <li>○仲の良い友人がいない</li> <li>○常識が乏しい</li> <li>○球技やゲームをする時に仲間と協力することに考えが及ばない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ ゲームをするときなどは、見通しがもてるように、活動するテーマや手順を板書したり、プリントに書いて示そう</li> <li>◎ グループ編成は、本児の特徴を理解している子どもを入れて、他の児童との橋渡し役となるようにしよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♡ どうしたらいいか分からなくなったら手を挙げるなど、振る舞い方を教えることにより、安心して集団の活動に参加できるようにしよう。</li> <li>♡ 休み時間などで教師が時間が取れるときに一緒に遊んで、友だちの仲間に入るやり方や振る舞い方を教えよう</li> <li>♡ 二人くらいから始めてスモールステップで友達とのかかわり方が体験できるようにしよう</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○動作やジェスチャーが不器用で、ぎこちないことがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 教室の座席は、教師が支援しやすい位置、または、本児の特徴を理解している子どもを近くにし、作業などでは協力し合えるようにしよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♡ 不器用な児童は外で体を動かすことを避けるので、休み時間に外で遊ぶ機会が増えるような働きかけをしよう</li> <li>♡ 細かな指のトレーニングよりも、体育や学級活動で楽しみながら体を動かす時間を設け、全身を動かす運動で身体能力の向上をめざそう</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○意図的でなく、顔や体を動かすことがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 普段からそれぞれの児童の良いところを認め合うことによって、どの児童もクラスの大切な一員となるようにしていこう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♡ 顔や体を動かすときは、どんなときか観察しよう。また、その前後の様子もとらえて指導に生かそう</li> <li>♡ 意志表出の乏しい児童の場合には、表情やしぐさから不満足感を受け止め、※教師が児童の気持ちを言語化する→※児童がどうしたいか言葉にして確認する(やり直したいなど)→※いつ実行するか選択肢を提示して本児に選択してもらいそれを尊重する、というスモールステップで対応することにより意志を表出するスキルを学習できるようにしよう</li> <li>♡ 授業を抜け出したときは、気持ちが落ち着いたら教室に戻ることを約束し、戻れたことで自己肯定感をはぐくむようにしよう</li> <li>♡ 勝ちたい気持ちは意欲の表れなので、本児が予想した結末と違ったとき、あるいは負けが決まった後の行動の仕方を教えたり、前もって練習しておいたりしよう。負けても怒らなかったときをとらえてほめよう 例 落ち着くためのお守りの言葉、深呼吸、手に落ち着く物を持つ 他人に迷惑をかけない上手なじたんだの踏み方</li> <li>♡ 衣類などの色や靴のデザインへのこだわりなど一見して分かりやすいもの以外にも、本児の様子を観察して周囲に分かりにくいこだわりがあるかどうか把握し、保護者とも情報交換をこまめにして本児の理解に努めよう</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ある行動や考えに強くこだわることによって、簡単な日常の活動ができなくなることがある(勝ち負けにこだわる)</li> <li>○特定の物に執着がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ パニックを起こしたことは叱責しないで、保健室や相談室に行って一人で静かに休ませよう</li> <li>☆ クラスの仲間に、本児の特徴を理解した対応の仕方や本児がパニックになってしまったときの対処の仕方を教えよう</li> <li>☆ ゲーム感覚の学習指導により、勝ち負けへのこだわりを強めないように気を付けよう</li> <li>◎ 本児のこだわる気持ちを認め(自分が納得できる作品を作りたいなど)、その気持ちをプラスのものとして学級全体に伝えていこう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♡ 背後にある不安を認めつつ、強い楽しみを提供することにより、成功体験を積めるようにしよう</li> <li>♡ 個別に変更後の時間割を視覚的に確認しながら説明をすると同時に、児童に連絡帳に書いてもらい、いつでも確認できるようにしよう</li> <li>♡ 家庭と連絡を取り、連絡帳を利用しながら説明してもらおうようにしよう</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分なりの独特な日課や手順があり、変更や変化を嫌がる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 時間割を変更する場合は、少なくとも前日までに伝え、さらに当日の朝、再度説明するようにしよう</li> <li>☆ 変更後の時間割を視覚的に明示して説明しよう</li> <li>☆ 変更を伝えるときは「大事なことを話します。○○さんも聞いてね」と言葉を添えた上で全員に話そう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>♡ 背後にある不安を認めつつ、強い楽しみを提供することにより、成功体験を積めるようにしよう</li> <li>♡ 個別に変更後の時間割を視覚的に確認しながら説明をすると同時に、児童に連絡帳に書いてもらい、いつでも確認できるようにしよう</li> <li>♡ 家庭と連絡を取り、連絡帳を利用しながら説明してもらおうようにしよう</li> </ul>		

<参考> ○群馬県教員委員会特別支援教育室「特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関するチェックリスト」 ○国立特別支援教育総合研究所発達障害教育情報センターHP「学校における支援・指導」  
○「ズバット解決ファイル」阿部利彦 編著 金子書房 ○「教室でする発達障害への教育コーチ」横田 健 編 林 隆 TOSS長州教育サークル 著 明治図書 ○「発達障害のある子どもができることを伸ばす!学童編」杉山登志郎・辻井正次 監修 日東書院